

平成28年度分担研究報告書
鹿児島のフォローアップの現状と課題

研究分担者(名前) 根路銘安仁

(所属) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター

研究協力者(名前) 河野嘉文

(所属) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野

研究要旨

(目的) 鹿児島のフォローアップ状況の確認と母子感染対策の課題を明らかにする。

(方法) 鹿児島大学で同意取得したHTLV-1キャリア妊婦の調査票、エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)、PSI育児支援アンケート、栄養ダイアリーの平成28年12月31日時点までの回収率を算出し1年間での変化を検討した。また、フォローアップ中に生じた課題を検討する。

(結果) 郵送および電話による連絡確認を強化することにより、1歳までのフォローアップ率は77.9%と維持、および2歳時55.6から64.1%、3歳時42.9から51.1%と10ポイント近く1歳以降の向上が認められた。脱落例は1歳以降の症例で総て住所不明や電話不通など音信不通が原因であり、県外転居で研究協力施設がない理由での辞退例であった。一方課題として妊娠時のスクリーニング検査陰性であったのに母子感染した症例と母子感染対策を遂行したが感染した症例を経験した。

(考察) 郵送および電話による連絡確認を強化することにより、1歳までのフォローアップ率の維持と1歳以降の向上が認められた。一方、症例はキャリア父より母へ性行為感染した後、母子感染したと考えられる。振り返り症例のため情報が少なく詳細は不明であり、比較できる文献も乏しい。キャリア男性の非キャリアパートナーへの母子感染予防について提供できる情報が不足している。母子感染した症例は心理的不安が強くカウンセリングが必要である。

(結論) 郵送および電話による連絡確認を強化することにより、フォローアップ率の向上維持が認められた。キャリア男性の非キャリアパートナーへの母子感染予防について提供できる情報の蓄積および体制構築が必要である。また、母子感染した症例へのカウンセリング体制の構築も望まれる。

A. 研究目的

(1) フォローアップの現状確認

昨年度行った鹿児島のフォローアップ現状と問題点の研究結果より、調査票の回収率は1歳半までは8割以上と高かったが、2歳以降は低くなる傾向がみられた。そこで、これまでも研究協力者へ、郵送および電話による連絡確認を強化した。その効果を確認する。

(2) 課題の発見

フォローアップ中に生じた課題を明らかにする。

B. 研究方法

(1) フォローアップの現状確認

鹿児島大学で同意取得したHTLV-1キャリア妊婦の調査票(出生時・1か月・3か月・1歳・1歳半・2歳・3歳)、エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)(1か月・3か月)、PSI育児支援アンケート(1歳)、栄養ダイアリー(1歳)の平成28年12月31日時点までの回収率を算出した。また、この1年間での辞退・脱落者の変化を検討した。

(2) 課題の発見

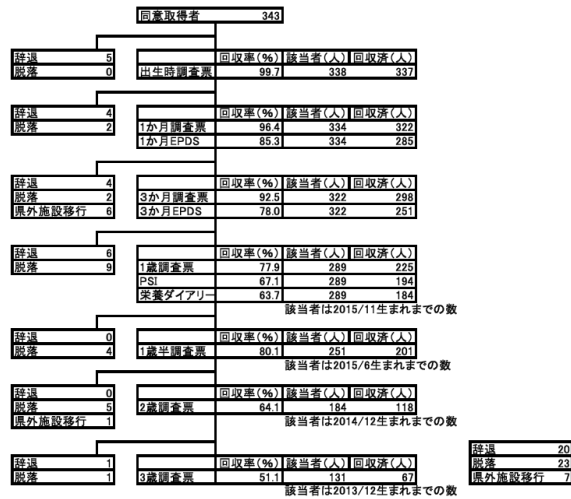
フォローアップ中の症例に関連した問題を文献等と比較し検討する。

C. 研究結果

(1) フォローアップの現状確認

鹿児島大学で同意取得した HTLV-1 キャリア妊婦は 343 名で県外施設への移行は 7 名(里帰り分娩で 1 か月健診後の 6 名、1 歳半以降に県外転居 1 名) 経過中の辞退者は 20 名(平成 27 年まで 19 名:以下平成 27 年までの分を括弧内に記載する) 脱落例は 23 名(8)であった。

1 調査票等回収率(図 1)



出生時調査票の回収率は 99.7%であった。

1 か月時には調査票は 96.4%(96.5)に比べ、EPDS は 85.3%(86.1)で低い傾向にあったが有意差は認められなかった。3 か月時には調査票 92.5%(89.4)に比べ、EPDS は 78%(72.9)と有意に低かった ($p < 0.05$)。

また、1 歳時も同様の傾向は続き、調査票の 77.9 (80.5)に比べ、PSI 67.1(69.1)、栄養ダイアリー 63.7 (67.3) の回収率は有意に低かった ($p < 0.05$)。

対象者が半数以下であるが、1 歳以降の調査票回収率は昨年に比べ上昇していたが、2 歳 64.1% (55.6) 3 歳 51.1% (42.9) と低くなる傾向は認められた。

2 脱落例

昨年以降の脱落例は 6 名で、住所不明や電話不通など音信不通が原因であった。2 名が 1 歳以降、4 名が 1 歳半以降と総て 1 年以上経過した症例であった。

3 辞退例

平成 27 年までは、19 人全員が 1 歳までに同意撤回し辞退していたが、今回は 1 名のみだった。

その理由は、「県外転居で研究協力施設がない」であった。

(2) 課題の発見

1 HTLV-1 妊娠時スクリーニング検査陰性であったが母子感染した 1 例

HTLV-1 母子感染対策が全国的に導入され、妊娠時に抗体検査が実施されている。しかし、スクリーニング検査陰性であったのに母子感染した症例を経験した。

【症例】4 歳女兒(第 2 子)。生来健康で発達発育に問題ない。父親がキャリア。母親は本児妊娠時検査陰性であったため母乳栄養で育てた。しかし、第 3 子妊娠時に陽性となったため、母親が心配し、抗体検査を行ったところ陽性であった。母親・本人に輸血歴はなかった。

2 母子感染対策を遂行したが感染した 1 例

今回、3 歳時調査結果が回収できた 67 名中 1 名(1.5%)が母子感染していた。人工栄養を選択した症例であった。検査結果が出たのちに面接を必要とした。

D. 考察

(1) フォローアップの現状確認

出生時から 1 歳までの調査票回収率は、前回同様に約 8 割の回収率が認められた。しかし、同時に行う協力者に記入してもらう EPDS、PSI、栄養ダイアリーについては有意に回収率が低くなった。

1 歳以降の調査票回収率は、対象者が半数以下であるが昨年よりも回収率が少し上昇していたため、今後現在と同じ様に連絡を強化すれば、1 歳までの回収率を維持できるかもしれない。

また、脱落例は少なくなったものの、総て住所不明や電話不通など音信不通が原因であり、定期的な連絡が重要であると考えられた。

辞退例も 1 名のみと少なくなった。理由が「県外転居で研究協力施設がない」なので全国的なフォローアップ体制の整備が望まれる。

全体として、郵送および電話による連絡確認を強化することにより、1 歳以降のフォローアップ率の向上と 1 歳までの維持が認められた。

(2) 課題の発見

キャリア父より母へ性行為感染した後、母子感染した症例と考えられる。しかし、振り返り症例のため情報が少なく詳細は不明であり、比較でき

る文献も乏しい。

母子感染対策体制も全国的に導入されたが、性行為感染経路対策については未整備である。配偶者に感染を遅らせれば配偶者の関連疾患発症リスク低下するため、性行為感染防止のためコンドーム使用の勧奨する価値があるかもしれない。しかし、キャリア男性の非キャリアパートナーへの母子感染予防について提供できる情報が不足している。

今後、母子感染対策で3歳時抗体検査が実施されれば事前にキャリア男性と認識しているものが増え、性行為感染およびそれに伴う母子感染予防についての情報についての需要が増えると予想される。

また、母子感染対策を行ったが母子感染した母親は、動揺が激しく自分の選択した栄養法についても否定的な考えを持つ傾向があった。今後、同意取得者数から考えると10名前後、同様の症例が出てくることが予想され、彼らへの対応も必要と考えられた。

E. 結論

(1) フォローアップの現状確認

郵送および電話による連絡確認を強化することにより、フォローアップ率の向上維持が認められた。しかし、全国的なフォローアップ体制の整備が望まれる

(2) 課題の発見

キャリア男性の非キャリアパートナーへの母子感染予防について提供できる情報の蓄積および体制構築が必要である。また、母子感染した症例へのカウンセリング体制の構築も望まれる。

F. 健康危険情報

無し

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 谷口光代、根路銘安仁、北村愛、下敷領須美子. HTLV-1 キャリア妊産婦からの相談内容-鹿児島県の保健師および助産師への調査結果から. *International Nursing Care Research*. 15(2):73-82, 2016.

2. 学会発表

1) HTLV-1 妊娠時スクリーニング検査陰性であったが母子感染した1例. 第119回日本小児科学会学術集会(札幌). 2016年5月.

2) 性行為感染が関与した HTLV-1 母子感染の問題点. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会(富山). 2016年7月.

3) HTLV-1 妊娠時スクリーニング検査陰性であったが母子感染した1例. 第3回日本 HTLV-1 学会学術集会(鹿児島). 2016年8月.

H. 知的財産権の出願・登録状況

無し